

授業科目名： **M&A 基礎**

科目区分： 金融・財務（応用）

必修・選択の別： 選択

配当年次： 1・2 年次

単位数： 1 単位（学習期間 1/2 学期）

担当教員： 中村 亨

オフィスアワー（授業相談の受付）：

e ラーニングサイトおよびメールでの質疑応答を受け付けています。

（メールアドレスは大学院グループウェアのアドレス帳でご確認ください）

1. 授業の概要

長い間、M&A は大企業だから可能なものであり、いわゆる中小企業にとっては身近なものとしては考えられてきませんでした。しかし、昨今、団塊の世代が引退の時期を迎えたことや、国内の内需不振、少子高齢化を背景とした業界再編の必要性と相まって、中小企業であっても、いわゆる「事業承継の解決策」として M&A が注目されてきたことにより、M&A 自体も身近な経営戦略として普及してきています。

本授業では M&A の基礎をわかりやすく身に着けることを目標に授業を進めていきます。

2. 学習目標

M&A が企業戦略として求められる時代背景から、買い手、売り手それぞれの目的を理解し、一連の流れをリアルな感覚値として学ぶことで M&A の基礎を理解します。また、昨今注目される PMI を学ぶことで、授業修了時には成功事例が少ないと言われる M&A の成功確率を高める方法について策定できるようになることを目指します。

3. 授業計画

第 1 章：導入（M&A が求められる背景、戦略、目的、プロセス）

M&A 総論になります。

M&A が行われる背景、M&A の分類、M&A の様々な手法、M&A の買い手、売り手それぞれの動機等について解説します。また、M&A に欠かせない M&A アドバイザーの役割についても触れます。

第 2 章：各種スキーム

M&A の各種スキーム、主に株式譲渡と営業譲渡、会社分割について解説します。

また、いわゆる「のれん」についての会計処理や影響、さらに発展して IFRS（国際会計基準）についても触れます。

第 3 章：バリュエーション

M&A の当事者にとって最も重要ともいえる「値段」について解説します。

「株価」を算定するための代表的な手法を解説し、実務においても活用できるレベルを目指します。

第 4 章：トップ面談、意向表明、基本合意

4 章以降は、M&A のプロセスについて順を追って解説します。

まずは、初期的交渉からトップ面談、意向表明、基本合意までの流れとその性格を解説します。

さらには「表明保証」など、欠かすことのできない重要論点を解説します。

第 5 章：デュー・デリジェンス（買収調査）

5 章では、基本合意を前提とし、その後のいわゆる買収調査について解説します。

財務だけでなく、法務、税務、IT、ビジネス、人事などの買収調査の種類について触れ、その要点や性格についても解説します。

第 6 章：クロージング、各論①～⑤の補足

クロージングと譲渡契約の重要論点について解説します。

さらには、買い手と売り手、双方にとって M & A を成功に導くポイントを解説します。

第 7 章：PMI（ポスト・マージャー・インテグレーション／経営統合作業）

昨今注目度が高まる PMI 全般について解説します。

全体のイメージと各プロセスで実施すべきことを解説します。

4. 受講上の留意点

大学の既定のスケジュール通りに遅延なく受講してください。

5. 成績評価基準

出席率：50%

各章の小テスト：25%

期末レポート：25%

6. 必読書籍

「この 1 冊でわかる M&A の実務のプロセスとポイント」（中央経済社）

7. 参考書籍

M & A を学ぶ前提として、会計の知識があげられます。

【会計に関する推薦本】

- ・ほんの少しの知識で決算書を「使いこなす」技術（PHP 文庫社）／ 著者：中村 亨
- ・財務マネジメントの基本と原則（東洋経済新報社）
- ・会計の事が面白いほどわかる本 会計基準の理解編（中経出版）
- ・会計の事が面白いほどわかる本 基本の基本編（中経出版）
- ・図解 はじめての企業買収（中央経済社）
- ・図解 会社法（平成 27 年版）（大蔵財務協会）

8. その他

特にありません。